

確認しよう！身近な危険

まちの安全点検を行いました

秩父市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを進めるため、セーフコミュニティの国際認証取得に向けた活動を進めています。今回は地域安全点検の取り組みをご紹介します。

5月17日(日)、セーフコミュニティ活動の一環として、花の木小学校、南小学校、秩父第二中学校周辺で、交通事故や犯罪等の危険箇所を確認する地域安全点検を行いました。

今回は、明治大学理工学部(山本俊哉教授)や警察庁科学警察研究所などのご協力をいただき、山本ゼミの学生、児童や保護者、教職員、セーフコミュニティ対策委員会のメンバーなど約60人が参加



車いすに乗り危険箇所を確認

しました。

参加者は、徒歩や車いすの班に分かれて、GPS受信機やカメラなどを携帯して、まちのなかを巡り、それぞれの視点から危険箇所を確認しました。

点検後は、班ごとにワークショップ形式で、実際に歩いて感じたことや、具体的な危険箇所等について意見を出し合いながら安全マップを仕上げました。できあがったマップをもとに発表会を行い、



ワークショップの様子



花の木小学校児童の発表

花の木小学校児童からは、「いつもの通学路でも、危険なところがあるとわかった。」「疲れたけど、楽しかった。」などの感想があり、楽しみながらマップ作りができたようでした。

また、保護者からは、
・狭い道路が多い
・夜間暗い道(街灯が少ない)が多い
・生け垣が高く、低学年の児童が隠れてしまう
・車いすでは通りづらい段差がある

などの指摘があり、地図や写真などで確認しながら情報を共有しました。
このほか、
・この道は毎朝掃除をしてくれる人がいる
・この交差点には毎朝見守りの方が立ってくれている

など、地域の良いところや、魅力の発見に関する発言もありました。さまざまな視点から、実際にまちを歩いて点検することで、普段は何気なく見過ごしている危険に気づくとともに、マップにすることで情報を共有し、安全意識を高める機会となりました。

山本教授は、「子どもも含めて、地域の人が主体となつて、課題を改善したり、まちのことを考えたりすることが大切です。秩父市民はとても熱心な人が多いので、ぜひ事故の予防につなげていただきたい。」と講評されました。

ケガや事故は、自宅や学校などの身近な場所でも発生しています。日頃から、「ここは気をつけよう」と意識することで予防することができます。

今後も、質の高い安心・安全なまちづくりの取り組みを進めていきたいと考えていますので、市民の皆さんもぜひセーフコミュニティ活動にご参加ください。

問 危機管理課 ☎22-2206



ワークショップで作った安全マップ